

気候変動を踏まえた河川施設のあり方検討委員会（第4回） 議事要旨

日時：令和5年9月14日（木） 10:00～12:00

主な意見は以下のとおり。

- 地下河川や調節池のネットワーク化の各検証について、浸水面積だけではなく、被害額などの深刻度でも比較するとよい。
- ネットワーク化については、効果の高い降雨や低い降雨について知見を得ることで今後の計画等に活かせると思う。
- ネットワーク化は計画規模以上の降雨においても、取水方法や施設の運用方法による容量の適切な使用等が必要である。
- 近年は計画規模の総雨量を短時間で観測する事象が増えている。このような事象についてもどの程度計画で補えるか確認しておくとうい。
- 気候変動による気温の2度上昇は2050年頃とされていることから、台風の強大化も2050年頃に起きると想定して優先度を検討することは現段階では妥当な見解である。
- 河川堤防と海岸保全施設との堤防高の設定は、それぞれの考え方があり、取合い部の擦り付け方等については、今後の詳細設計などで検討していくべきである。
- 低地河川における気候変動を考慮した必要堤防高の設定において、不確実性を踏まえ、余裕を見ることが重要と考える。
- 防潮堤高さに不確実性を考慮する場合は、考え方など根拠を明示しながらハードで対応することや、モニタリングをしつつ見直しを行う等、様々な方法が考えられる。
- アンサンブルデータ（d2PDF）を用いて不確実性の幅の見積りに使用することも可能である。

以上